



成果指標				
成果指標	各種事業の参加者人数を指標とする。			
指標設定の考え方	障がい者理解と啓発を深めるため、事業に参加した障がい者やその家族、地域住民の人数を指標とする。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標28年度
目標	300	300	300	300
実績	238	255	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	障害者団体主催の「つどい」は盛況ではあったが、一般からの参加が少なく、主催者の運営の自主性もあまり見られなかった。この点に課題が残る。育成会主催の勉強会では、かなり主体性が見られ、今後の運営に期待が持てる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	育成会主催の障がい児の保護者や学校関係者との勉強会では、子どもの将来について、関係機関が早期から真剣に取り組むことをアピールすることができた。また、障害者団体主催のつどいでは、防災・合理的配慮の推進のため、工夫をしたつもりであったが、結果的に行政が主導権をとってしまったことで、団体の自主性が削がれてしまった。障害者団体の自主活動を促し、市民に障がい者理解や啓発を推進するため必要な事業であるため、支援を継続したい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	